

交通総聯盟の聲明書

吾國労働運動の現勢を觀察するに其の分野は實に混沌たるものがあるが其間に於て労働運動の本来的歴史的使命を没却し、労働大衆をして思想の爲の犧牲たらしめんとする無責任なる一潮流の存在することは、吾等の最も心外に思ふ所である。吾等は無産階級解放の大理想に向つて突進するものと認め、其の突進政策に於ては、常に客觀的情勢に對する正しい認識の上に立ち、最も著實なる歩調を取らなければならぬ。

然るに左翼的小兒病患者は、我國資本主義が最後の断末魔にあることのみを高調して彼らに突如的の革命を夢想し、辯證的飛躍のみを説き、何等労働大衆の生活に立脚せる合理的政策を顧みない。彼等は労働運動の共通性のみを知つて、吾國労働運動の特殊性と知らず、況や我が交通労働運動の特殊の立場を解せずして、たゞ彼等の空想的革命論を實行する一名称としか考へない。純真なる労働大衆を踏台として、その切實なる生活要求を犠牲にしてたゞ辯證的と稱する革命論を實行すれば足れりとする彼等一派の態度は吾等労働階級を侮辱し労働運動の精神を冒瀆するものでありと確信する。